

せきぞうしやかによらいざぞう
「石造釈迦如来坐像」 県宝（彫刻）

所在地：大字坂城 1148 所有者：満泉寺 指定：昭和 39 年 8 月 20 日

満泉寺の本尊で、像高 45.8 cm の坐像です。安山岩質一材の彫像で、螺髪は彫り出しの大粒でやや低め、髪際は波形、彫眼で、上下瞼は波形で俯瞰しています。衲衣は左肩から懸ってわずかに右肩を蔽っています。法界の定印を結び、右足を外にして結跏趺坐しています。螺髪は大粒で、髪際をゆるい波形に、両眼を幅広く見開いた形等は鎌倉時代によく見られるもので、制作は鎌倉時代後期と考えられます。

県内石彫の本尊像として唯一の古例であり、木彫像にならった本格的な石彫像で像容も安定し、技法的にも彫口がこまかく、勝れた石像です。

法量 像高 45.8 cm

頂～顎 18.5 cm	髪際～顎 11.5 cm	面幅 10.3 cm	面奥 13.1 cm
臂張り 35.2 cm	膝高 8.0 cm	膝張り 45.0 cm	膝奥 34.3 cm

